

# 再評価結果（平成16年度事業継続箇所）

担当課：関東地方整備局都市整備課

担当課長名：東 智徳

事業名 やすうらしたうらせんがいるじぎょう 安浦下浦線街路事業		事業区分 街路事業	事業主体 神奈川県
起終点 横須賀市野比一丁目 横須賀市長沢		延長 2.14km	
事業概要 本路線は、三浦半島東部を縦貫し、国道16号と国道134号を結ぶ主要な幹線道路である。			
H2年度事業化		S42年度都市計画決定 (S55年度変更)	H2年度用地着手
H2年度工事着手			
全体事業費	250.0億円	事業進捗率	75%
計画交通量	22,000台/日	供用済延長	0.52km
費用対効果 分析結果	B/C (事業全体) 2.0  (残事業) 10.7	総費用 (残事業)/ (事業全体) 64.5/329.0億円 〔事業費：62.5/327.0億円 維持管理費：2.0/2.0億円〕	総便益 (残事業)/ (事業全体) /669.0億円 〔走行時間短縮便益：/611.0億円 走行費用減少便益：/53.0億円 交通事故減少便益：/5.0億円〕
基準年 平成16年			
事業の効果等 円滑なモビリティの確保・・・現道の旅行速度が改善される。 国土・地域ネットワーク・・・現道等における大型車のすれ違い困難を解消する。 災害への備え・・・緊急輸送路が通行止になった場合に大幅な迂回を強いられる区間の代替路線を形成。			
関係する地方公共団体等の意見 当該事業については、横須賀市長から県での整備の要望書が提出されている。			
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 周辺の交通渋滞は現在も慢性的に発生しており、本事業の重要性・必要性は依然として高い。			
事業の進捗状況、残事業の内容等 用地取得は98%と進んでおり、現道を生かした計画となっているため経済的である。これらから代替案は難しく、現在の計画で進めたい。			
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 平成20年度の部分供用及び平成24年度の全線供用を目指す。			
施設の構造や工法の変更等			
対応方針 早期完成を目指し、事業を継続する。			
対応方針決定の理由 周辺の渋滞の解消、横浜横須賀道路佐原ICへの円滑なアクセス等事業の必要性に変化はなく、依然として事業の重要性は高いものと判断される。			
事業概要図			

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。